

2021年8月20日  
井関農機株式会社

2021年12月期第2四半期 決算説明会  
質疑応答要旨

**(問1) 上期が好調のなか、2月公表の通期業績予想から変更しない理由は？  
下期のリスク要因は？**

(回答)

- ・収益構造として国内のウエイトが高い当社は、国内市場の動向に左右されやすい面がある。季節性のある国内市場により、当社の業績は、例年、需要期である第2・3四半期は黒字、不需求期である第1・4四半期は赤字になる傾向がある。2021年12月期については、消費増税反動減からの回復や経営継続補助金の需要喚起等もあり、第1四半期より好調が続いたが、これらは需要の前倒しでもあると見ている。
- ・加えて、新型コロナウイルス感染症拡大によるインバウンドや外食産業における需要の低迷等により、国内の食料需要は低下している。米価低下による農家購買意欲減退の可能性があり、秋以降の当社業績に影響してくるリスクがある。
- ・海外においては、新型コロナウイルス感染症影響に伴うサプライチェーンの混乱による未出荷などの受注残拡大をリスクとして見ている。また、海外の生産拠点であるPT.井関インドネシアのあるインドネシアにおいては、新型コロナウイルス感染症が拡大しており、足許では改善してきているが、当工場の従業員の感染も発生している。そのため、生産を通常より5割程度に抑えて操業している状況である。現時点では供給への大きな影響はないが、今後の状況次第では、北米、欧州、アセアン向け製品が十分に供給できないリスクがあると考えている。また、欧米での海上輸送用コンテナ不足による未出荷等の拡大や原材料価格の高騰と高止まり等のリスクとして見ている。
- ・上期は好調に推移したが、上記のリスク要因等を織り込み、通期業績予想は変更していない。配当予想についても、この状況を踏まえ、引き続き未定としている。

**(問2) 北米において、AGCO社の2021年1-6月実売が前年同期122%であるに対して、当社の2021年1-9月売上・受注状況は162%となっている。市場動向としては、5-6月は前年を下回っているようだが、在庫過剰となる可能性はないのか？**

(回答)

- ・好調な北米市場において、AGCO社からの受注に十分に応えられていない状況である。昨年の部品入荷遅れによる生産遅延もあり、AGCO社及びディーラーの在庫水準が2ヶ月程度まで低下しているため、AGCO社からの引き合いが継続しており、当社の売

上・受注状況も好調に推移している状況である。低下した流通在庫水準を戻すためにも、しっかりと対応していきたい。

**(問3) 国内市場動向において有機農業に関する説明があったが、有機農業に関する政府補助金規模はどれぐらいか？**

(回答)

・現在、農林水産関係予算に関する概算要求内容の検討が行われている状況のため具体的な金額は公表されていないが、2021年5月に発表された「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた予算を主要項目とした枠組みが9月以降公表されるのではないかとみている。2022年農林関係予算においては、生産性基盤の強化や水田活用による主食用米以外の作物への転作、輸出促進に向けた内容、脱炭素やスマート農業関連等が織り込まれると考えている。

**(問4) 2022年4月以降に特許料の引上げが予定されているが、当社への影響は？**

(回答)

・特許料の引上げは当社としても影響を受ける。その為、1出願あたりに含まれる出願技術(権利化技術)を増加させることで、特許料の削減を図る。権利化された技術特許を継続する場合も費用が発生するため、権利継続についてこれまで以上に厳選しながら、一層質の高い権利化に努めていく。

以上

**将来予測に関する免責事項**

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、2021年12月期第2四半期決算説明会開催日(2021年8月17日)時点で当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。